

熊谷町 竹井新右衛門

新編武蔵風土記稿 大里郡 忍領 熊谷町

井長資ト家男信上信カ氏吉舊
 等三系ト譜新親寺武故ノノ家者
 ヲ尺緘云コ右ハチヲ有祥女新
 氏跡コ事職衛阿開ケコ勅ナテ右
 トコアウタ門部ケコ勅ナテ衛
 セシ玉ケレ正豐リハ勅ナテ門
 ルア統カト信後次コヲ天文本
 モ塞モヒモ父守男留堂ナテ原
 ノ念アカトノ忠新メリ竹十二陣
 ア佛レケロ家秋左ヲ當井二信同
 リトハヤリリチノ衛歸國コ五長ヲ
 皆名戦モ他繼臣門京別コ月男餘
 成付争ノノテト信セ府改メ十竹役
 田クコナ據當成次リコメ七井ス
 ノ此用レトナコ次ヲ武居ト日新竹
 家陸ヒトナコ次ヲ武居ト日新竹
 人名ヲ姑シ土男繼キ子信ノ門ナ
 ノ主ル傳又着梶其ア武信ノ門ナ
 子本モヘ天シ塚源子ヲ出武ト尉リ
 孫陣ノノ女子源五善長生ノキ信先
 ナノトマノ孫右兵男ノ父庭武祖
 ル内見ハ頃相衛衛門信出勅ハ井信屋
 田コユア勅勘シ葉久信シノ後中武右
 イ石ヲ録勘シ葉久信シノ後中武右
 へ川リセヲ葉今ハ信シノ後中武右
 鯨鯨家ノ新元ノ榮ユ瓦ヲ母門
 鏡コテ當右氏長光ル院生ハ管
 刀具當國衛ノ男トシノセ別兼
 モ足國衛門臣甚釋ア府後
 持一コ門臣甚釋ア府後
 傳頭盤コト五リ面ユ尾ノ
 フチ居至ナ右村ハナヘ張後
 刀藏セルリ衛内カリ竹守胤
 ハスル由三門石ハ胤長

旧家者新右衛門

本陣・問屋を兼任する竹井氏である。先祖は竹屋右衛門督兼俊の後胤で藤原俊信の長男である。竹井新左衛門尉信武として生まれた。母は別府尾張守長吉の娘で、天文二十二年(1553)五月十七日の出産の時、庭先の井戸の中に竹が生えていたことから竹屋氏の発祥となり竹井にあらためた。

信武の父俊信は、後奈良院(明応5年(1497)～弘治3年(1557))の北面警護をしていたが、故あって勘当を被り当国の別府に蟄居していた。

信武の出生の後勘当の許しが出て、信武をここに残して帰京した。

信武に二子いて長男は出家して栄光と称し村内の石上寺を開いた。次男の新左衛門信次が家を継ぎ、その子は善兵衛信久、信久の長男甚五右衛門信親は阿部豊後守忠秋の家臣となり、次男の梶塚源五右衛門某は秋元氏の家臣となり、三男新右衛門正信が家をまとめて当所に土着し、子孫が相続して今の新右衛門に至る。これらは家譜に載っているけれども、もとより他の証拠が有るわけも無く、また天文の頃に勘当を被り当地に蟄居していたなど受けがたいものもあるが、この伝えのまま記録に残す。

家に具足1領を持っている。黄糸の緘(おどし)で玉庇も有るので、戦争に用いたものと見える。また鞍、鎧、刀も持ち伝える。刀は長さ3尺余りで寒念仏と名が付いている。このほか名主・本陣の中に石川、鯨井などの姓を氏とするものがある。皆、成田家臣の子孫であるといえる。

「信武の父俊信は、後奈良院(明応5年(1497)～弘治3年(1557))の北面警護をしていたが、故あって勘当を被り当国の別府に蟄居していた」は裏付けとなる文書はなく、言い伝えであるようですので、本当かは分かりませんが、別符氏と姻戚関係があったと思われます。